

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

「あなたならどうする」 災害から身を守るには 地震や台風などの自然災害に対して、従来から「自主防災」があります。自主防災の基本理念は、「**自分の地域は自分で守る**」です。これは重要な事ですが、その前に「**自守防災**」が必要です。これは「**自分の生命（いのち）は自分で守る**」ことです。

現在この言葉はありませんが、新たに提唱する必要がある、これは「**創造的問題解決**」の1例です。

まずは自分の置かれている状況を確認した上で対策を講じねばなりません。【水害】ハザードマップを確認して下さい。【地震】とりあえず家の中の避難場所を決めて下さい。【津波】高い所の避難場所を決めて下さい。【土砂崩れ】可能性があるか確認して下さい。それぞれの状況に応じて、自分がしなくてはならないことを、今一度確認して下さい。

さて、今年の初めに起こった能登半島震災では、多くの家屋が倒壊し、200人以上の方が亡くなりました。地震の震度6以上はまれに起こるとというのが定説でしたが、近年では頻繁に起こっています。そして今回の場合は、1度目の地震ではなく

2度目の地震で多くの建物が倒壊したことが分かっています。

耐震の建築基準をクリアした木造住宅は90%を超えているとのことですが、これで大丈夫なのでしょうか。現在の耐震建築基準は1～3級の基準があります。1級は建築基準の1倍、2級は1.25倍、3級は1.5倍となっています。

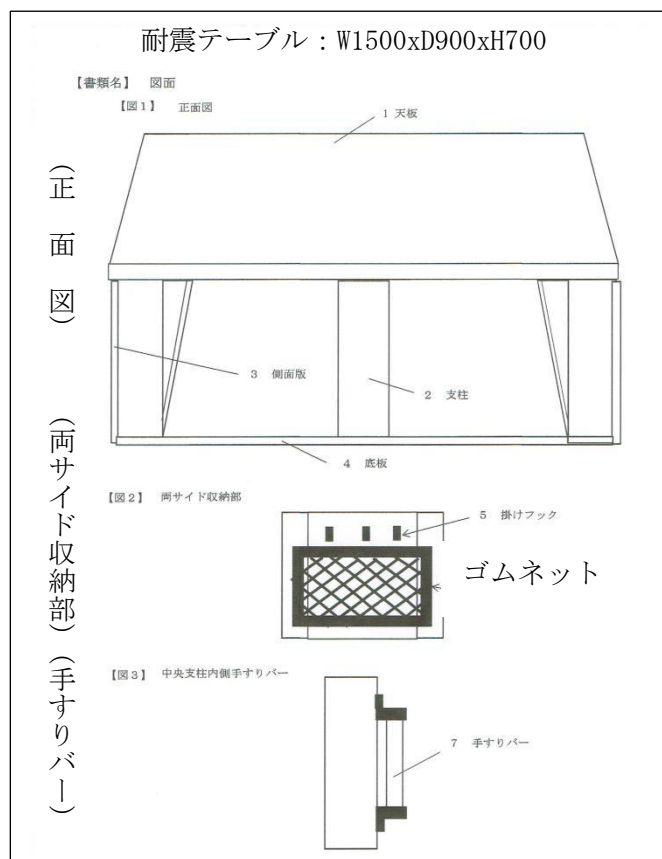
ところが実験によると震度6以上で2級レベルでも倒壊する可能性があることが分かったそうです。となれば耐震補強工事をしていても安心してはいられません。耐震補強で3級レベルの補強となれば、大変高額なものとなります。

そこで提案するのが右図のテーブルです。従来から地震が起きたら机やテーブルの下にと教えられていますが、家具の倒れや上からの落下物に対して、ある程度の防御は出来ませんが家屋の倒壊は無理です。

このテーブルは耐圧5トン位を想定、また両サイド内側に収納部があり、救命品・食料・水・医薬品・寝袋などが装備出来、中央支柱の内側両サイドに手すりバーを有し、地震時にはこれに掴まって身体の安定が図れます。いわゆる「テーブル型シェルター」です。

万一家屋が崩壊してもテーブル下の空間で、救助されるまで1週間程度の生活も可能です。価格的には20万円前後で出来ると思います。家1軒が2,000万円とすれば、これで100人以上の人の生命が守れます。耐震強化が出来ない家屋を持つ自治体では、是非導入して戴きたい。

現実的な話としては、高齢の一人暮らしや高齢者に住まいの耐震補強費用は出ませんし、家の建て替えも出来ません。その時は死ぬだけですとあきらめの言葉まで聞かれます。20万円位なら、行政の負担や離れて済む息子や娘が負担しても可能な範囲で、親の心配も少なく済むのではないのでしょうか。



「同窓会だより」問い合わせやご意見

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX：(053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。